

でんでら通信 第百二十八号 令和六年十二月

坐禅会

十二月二十六日(木) 十時に坐禅会を開催します。
みなさんご参加をお待ちしております。

相身互い

先日、アイミタガイという映画を鑑賞してきました。映画の内容は、ネタバレとなりますので、割愛させていただきますが、感動する映画であることは間違いありません。大きなお世話かもしれない小さな親切から人と人の縁が交錯し、見事に織りなす物語にしみみと癒されます。「アイミタガイ」、聞いたことのない言葉でした。年配の方ならご存じなのかもしれません。その意味は、物語が進むにつれて明らかになってくるのですが、わかってきた頃には、涙があふれてくるのでした。

また映画のロケ地が、桑名市、四日市市など、見たことのある風景やお店が出てくるのもこの映画の楽しみでした。ヒロインは演技力に定評のある黒木華。ヒロインの親友に藤間爽子、彼氏に中村蒼、そして西田尚美、草笛光子、風吹ジュンなどベテラン女優が脇を固めて出演しています。お薦めの映画です。

この映画にも関わってくる「縁」とは、お釈迦様がお説きになられた「縁起の法」からきています。

「縁起」とは「縁(よ)りて起こる」と読むことができ、この世で起こる全ての事柄には、それが生じ

る原因があり、そこに無数の縁(条件)が重なり、最終的に結果が生じています。

例えば花の種を蒔けば芽は出ますが、そこから大輪の花を咲かせるためには水、肥料、太陽光など様々な縁が良い方向に重ならなければなりません。

私たちのいのちも単独で存在しているのではなく、縁が重なることによって奇跡的に生まれ、お互いに関係し合いながら支え合い「生かされている」ということがいえます。

また人生の中で起こる全ての出来事は自らの言動や行ないに対して無数の縁が重なった結果、生み出されることであり、覚悟を決めてその全てを受け入れ、そこで精一杯生きていかなければなりません。

渡部成俊(わたべ しげとし)さんをご存知でしょうか？ 渡部さんは一九四五年生まれ。十歳で父親を亡くし、家計を助けるために中学卒業後は様々な職に就きながら、二十六歳で婦人服のプレス業を開業。また会社経営の傍ら教育支援事業にも携わり、地域活動にも精力的に参加。多忙でありながらも充実した日々を送っておられました。

そんな最中、渡部さんは受診した健康診断で胃臓ガンが発見され、翌年大手術を受けられます。その後仕事復帰を果たされるも、転移性肺ガンを再発。医師より余命1年半の宣告を受けられます。

まさに絶望の淵に立たされた渡部さんは何度も自殺を考えられましたが、そんな時に心の支えとなつたのが長年連れ添った奥様の存在でした。

そして、その後の闘病生活の中で自らを静かに見つめた時、がむしやらに生きてきた過去には見えな

かった「生きる意味」を自覚されたのです。

渡部さんは限られた時間の中で、地域の子供たちに自らの思いを伝えるため、講演活動「いのちの授業」を始められます。その中で「生きていく上で決して忘れてはならないのは、全てのものに感謝し、人のために尽くすことである」と強く訴えておられます。

渡部さんは今回の病を契機に、網の目のように無数の縁が重なり合い、支え合つて奇跡的に自らのいのちが存在していることを自然と感じられました。そして、今まで多くのお蔭様によって生きてこれたことへの感謝の気持ちが湧き起こってきたのです。その後渡部さんは、惜しまれながらも六十三歳という若さでお亡くなりになりますが、氏が残された魂のメッセージは多くの子供たちの心に刻み込まれたことでしょう。参考…《縁起 生かされているいのち》・興雲庵住職 坂井田泰仙師より

人の一生は長いようで短い。毎日の生活では、「やれやれ、なかなか時間が経たないな、早く仕事の時間が終わって帰りたいな」と思うものです。それが楽しい休日となると、あつという間です。

そんな私たちも慌ただしい生活を送る中で、つい見失いがちな、「縁によって生かされている奇跡、有難さ」を今一度かみしめ、限られた日々を大切に過ごしてまいりたいものです。

今年もはや十二月となりました。振り返ってみると、いったい今年は何をしていたんだろうと思ってしまう。光陰矢の如し。どうかみなさん、お体には十分気をつけてよいお年をお迎えください。